

からだのための命の経験、成長、務め

(土曜日——夜の部)

メッセージ 6

命の務め

聖書：Ⅰヨハネ5:14-17. Ⅱコリント3:6. 4:1, 12. エレミヤ2:13

I. 主の回復の諸召会は、命の務めを必要とします——Ⅰヨハネ5:14-17. Ⅱコリント3:6. 4:1, 12:

A. 務めは、構成に基づいています。わたしたちは、キリストであるものをもって、キリストが行なったものをもって、キリストが到達したものをもって、キリストが獲得したものをもって構成される必要があります——エペソ3:8, 17:

1. 務めは、すべてを含む、命を与える霊をもって構成された結果として生み出されます。キリストと、彼であるもの、彼が持っているもの、彼が到達したもののすべては、わたしたちの存在の中へと構成し込まれなければなりません。これが、務めを持つ唯一の道です。
2. 新契約の務めは、命の事柄であるだけではなく、命における、また命から出て来る構成でもあります——Ⅱコリント4:12。
3. その霊は、手順を経た三一の神の究極的な表現であり、神聖な命を、すなわち、神ご自身をも、使徒たちと他のすべての信者たちの中へと分け与えて、彼らを新契約（命の契約）の奉仕者とします。このゆえに、彼らの務めは、命の三一の神をもって、神の命を与える霊によって、構成されたものです——3:6. Ⅰコリント15:45後半. ローマ8:2, 11。
4. 新契約の務めは、命を与える霊の務めです。なぜなら、新契約は神の義をもたらして、人に命を得させるからです——5:17, 21。

B. 新契約の奉仕者たちは、神が復活の神であることを経験し、復活の神である彼を他の人たちへと供給します——Ⅱコリント1:8-10。

C. 使徒ヨハネの務めは、命の繕う務めですが、聖書はこの務めをもって終結していません——マタイ4:21. ヨハネ1:4. 10:10. 11:25. 20:31。

II. わたしたちは永遠の命を持っており、永遠の命を経験し享受しています。そしてわたしたちは、この命をからだの他の肢体に供給します——Ⅰヨハネ1:2. 5:14-17:

A. 命を供給することは、命を分け与えることです。わたしたちは命の余剰を持つとき、この余剰から他の人たちに供給することができます——Ⅰヨハネ5:16。

B. Ⅰヨハネ第5章16節において、「その人は祈り求める」と「彼は……命を与えます」は、同じ人を指しています。すなわち、自分の兄弟が罪を犯しているのを見て、彼について祈り求める人を指しています:

1. そのように祈り求める者は、主の中に住んでおり、主と一ですが、手段、経路となります。それによって、神の命を与える霊は、彼が祈り求めている人に命を与

えることができます。これが、神聖な命の交わりの中で命を供給することです——Iコリント6:17. Iヨハネ1:3, 7。

2. 他の人たちに命を与え、分け与えることができる者となるために、わたしたちは神聖な命の中に住み、神聖な命の中で生き、歩み、その中で存在しなければなりません——ヨハネ15:4-5, 7. Iヨハネ1:1-7。

3. わたしたちは、わたしたちの中の永遠の命を経験し、享受する必要があります。またわたしたちは、経路となることによってこの命を供給する必要があります。この経路を通して、永遠の命はからだの他の肢体へと流れ出ることができます——5:16。

Ⅲ. わたしたちは命の務めにおいて、主と一になり、聖徒たちを励まして、生ける水の源泉としての神を経験し享受させ、彼を彼らの唯一の源とさせる必要があります——エレミヤ2:13. 啓7:17:

A. 神のエコノミーにおける神の意図は、ご自身が生ける水の源泉、源となって、彼の選ばれた民を満足させ、彼らの享受となることです——エレミヤ2:13. 詩36:8-9:

1. 神がわたしたちに願っていることは、彼を生ける水の源泉、わたしたちの生活の唯一の源として受け入れることです——ローマ11:36:

a. 神は、彼の選ばれ贖われた民が、彼ご自身以外のどんなものをも源として受け入れることを願っていません——Iコリント8:6. エレミヤ2:13。

b. わたしたちは、神をわたしたちの源として受け入れて、彼と一になり、彼から出て来るものすべてを受け入れるべきです——ローマ11:36。

2. 神のエコノミーにおける神の目的は、内側で神の命と性質を持っており、外側で神のかたちと姿を持っている一群れの人を持つことです。この一群れの人、一つの団体の実体、すなわちキリストのからだであり、彼と一になって、彼を生き、彼の団体の表現となります——創1:26. エペソ1:10. 3:9. 4:16。

3. 神が生ける水の源泉となることの目標は、彼の増し加わりとしての召会を生み出して、彼の豊満とならせ、彼を表現することです。これが、神のエコノミーにおける神の心の願い、大いなる喜びです——1:5, 9, 22-23:

a. 神が彼の選民に対して生ける水の源泉となる必要があるのは、彼がエコノミーを持っており、彼のエコノミーは、彼ご自身のために配偶者、花嫁を生み出すことであるからです——ヨハネ3:29前半. 4:14. 啓19:7-8。

b. 神は生ける水の源泉となって、彼の選民に飲ませることを願っていますが、その目的は、彼が増し加わり、拡大されることです——エレミヤ2:13。

c. 神のエコノミーは、彼ご自身を生ける水として分与して、彼の増し加わり、彼の拡大を生み出して、彼の表現とならせることです——コロサイ2:19。

d. わたしたちが生ける水の源泉としての神から飲むことは、彼の増し加わりとしての召会のためです。わたしたちの飲むことは、彼の拡大、彼の豊満を生み出して、彼の表現とならせるためです——ヨハネ4:14. 3:29前半. Iコリント12:12-13。

- e. 生ける水の源泉としての神以外のどんなものも、わたしたちの渇きをいやすことはできず、わたしたちを満足させることはできません。わたしたちの存在の中へと分与された神以外のどんなものも、わたしたちを彼の増し加わりとならせて彼を表現することはできません——啓22:1, 17。
4. 神の願いは、彼の選ばれた民に対してすべてとなることです。それによって彼らは、すべての事で彼に信頼し、彼に依り頼みます。もし彼らがこうするなら、彼らは神の分与を受けます——エレミヤ17:7-8。
5. 生ける水の源泉としての神を受け入れる唯一の方法は、彼を飲むことです。わたしたちは彼を飲むことによって、生ける水の源泉としての神から流れ出る生ける水を、わたしたちの中へと受け入れます——ヨハネ4:14, 7:37. エレミヤ2:13。
- B. 三一の神が手順を経て究極的に完成されたのは、彼ご自身をわたしたちの三部分から成る存在の中へと分与するためです——ヨハネ7:37-39. ローマ8:11：
1. 神のエコノミーは、彼ご自身をわたしたちの存在の中へと分与することです。それによって、わたしたちの存在は、彼の存在をもって構成されます。このことは、神がご自身を神聖な命としてわたしたちの中へと入れることによってのみ、達成されることができません——2, 6, 10-11節。
2. 神は彼ご自身をわたしたちの中へと命として分与することによって、彼のエコノミーを達成します。それは彼が、彼ご自身の団体の表現を持って、永遠へと至るためです——啓21:9-10, 22:1。
- C. わたしたちは、生ける水の源泉としての神から飲む必要があります。それによって彼は増し加わり、彼のエコノミーを完成し、彼の配偶者を通して彼の表現を持ちます——エレミヤ2:13. Iコリント12:13. ヨハネ4:14：
1. わたしたちが生ける水の源泉としての神から飲むとき、彼はわたしたちと一になり、わたしたちは彼と一になります——詩36:8-9。
2. わたしたちは神から飲めば飲むほど、さらに彼はわたしたちと一になり、さらにわたしたちは彼と一になって、彼の命と性質において彼で構成され、彼の団体の表現、彼の配偶者となり、彼の心の願いを完成し、彼の永遠のエコノミーを究極的に完成します——ヨハネ3:15. IIペテロ1:4. エペソ1:5, 9. 5:27。

務めからの抜粋：

その務め

コリント人への第二の手紙は務めについて語っており、務めは苦難、衰えさせる圧迫、十字架の殺す働きを通してのキリストの豊富な経験をもって構成され、それによって生み出され、形成されます。務めは単に賜物の事柄ではありません。ある人は流ちょうに雄弁に語り、多くの良い例証やことわざを与えることができますが、これは賜物にすぎません。今日、召会、からだが必要とするのは務めです。からだは神によって、神をもって徹底的に造り込まれた何人かの兄弟姉妹を必要としています。それは、彼らがキリストの何かを持って、単に知性の中で知識として人を教えるのではなく、彼らの霊の中の、また彼らの

内側の全存在の中のキリストの豊富として、人に伝えるためです。わたしはこれらの人がある場所に出て行って、人々と接触し、交わりを持つことを期待しています。最終的にわたしたちは、これらの人が訪問した場所で、聖徒たちの命の成長と建造を見るでしょう。今日、多くの教え、多くの知識、多くの賜物がありますが、務めが大いに欠けています。わたしたちはこのような務めを願い求めなければなりません。わたしたちはこう祈る必要があります、「主よ、わたしに恵み深くあり、わたしが賜物についての観念から救い出されるようにしてください。わたしはその霊としてのキリストにある神のものをもって造り込まれることを、何と切望していることでしょうか。神聖な要素のものがわたしの中へと造り込まれて、わたしが人に供給し、キリストの神聖な務めを持ちますように」。召会は賜物よりはるかに務めを必要としています。

神によって慰められる

コリント人への第二の手紙第1章4節から6節は言います、「この方は、わたしたちのすべての患難の中で、わたしたちを慰めてくださいます。それは、わたしたち自身が、神によって慰められているその慰めを通して、あらゆる患難の中にいる人たちを、慰めることができるためです。なぜなら、キリストの苦難がわたしたちにあふれているように、わたしたちの受ける慰めもまた、キリストを通してあふれているからです。わたしたちが患難に遭うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためであり、わたしたちが慰められるなら、それはあなたがたの慰めのためです。その慰めは、わたしたちも受けている同じ苦難を、耐え忍ぶことの中で働くのです」。これらの節を何度も祈り読みするなら、今日、召会が必要とするものは務めであることを見るのを助けるでしょう。神は一つの目的のために、すべての患難の中にいるわたしたちを慰めてくださいます。それは、わたしたちが他の人を慰めることができるためです。4節の「慰め」のギリシャ語はまた「元気づける」を意味します。神によって慰められるとは、神によって元気づけられることを意味します。

十字架の働き

キリストの苦難がわたしたちにあふればあふれるほど、わたしたちはますます慰めや新鮮にされることを享受することができます。キリストにある神のものを人に供給しようとするなら、わたしたちは苦難を受けて経験を持たなければなりません。わたしたちは十字架の道によって、いくらかのキリストの豊富を人に供給することができます。務めはほかに方法がなく、十字架の働きによって出て来ます。

パウロは、神が彼を「極度に……圧迫され」（8節）、「極端に押さえつけられ」た状況に置いたのは、パウロが人を慰めることができるようになるためであったと告げました。あなたはなぜこんなに多くの問題があるのかと自らに尋ねるかもしれません。あなたは配偶者に、子供に、自分の肉体にさえ問題を持っているかもしれません。あなたはこの書の中に、「極端に押さえつけられた」、「極度に圧迫された」という句があるのに気づいたのでしょうか？ あなたは圧迫されていて、極度に圧迫されているのでしょうか？ これは十字架の働きがあなたを終結させ、あなたを終わりにもたらしたことを意味します。

パウロは、彼と彼の同労者たちが極度に、耐えられないほどに圧迫されて、「生きる望みをさえ失ったほど」（8節）であると告げました。多くの若い兄弟たちには力があります。しかし、遅かれ早かれ主はあなたを何度も圧迫し、あなたはその苦難に耐えようとします。ついに、あなたは言うでしょう、「主よ、わたしの忍耐を放棄します。あなたの圧迫は、わたしの力をはるかに超えています」。あなたはある種の苦難の下にいるとき、決して自分の力を働かせ、それを耐えようとしてはなりません。決してそれに打ち勝とうとしてはなりません。あなたは、やがて主があなたの力を越えてあなたを圧迫することを、認識しなければなりません。圧迫が来ると、あなたは自分のすべての力を、すなわち肉体的に、心理的に、霊的に働かせようとします。しかし、あなたが自分の力を働かせれば働かせるほど、ますます圧迫されます。ついに、あなたは圧迫があなたの力をはるかに越えていることを認めます。わたしたちの力を越えた極度の圧迫のゆえに、主を賛美します！

パウロと彼の同労者たちが圧迫されて、生きる望みをさえ失った後、彼は言いました、「実に、わたしたちは自ら、自分自身のうちに死という答えを持ちました。それは、わたしたちが自分自身に信頼するのではなく、死人を復活させる神に信頼するためでした」（9節）。使徒たちは患難の圧迫の下にあって、生きる望みをさえ失ったとき、この苦難の結果は何であるかと自らに尋ねたでしょう。その答え、応答は「死」です。しかしながら、死の経験はわたしたちを復活の経験へともたらします。復活とは、死人を復活させる神です（ヨハネ11:25）。十字架の働きはわたしたちの自己を終わらせて、わたしたちが復活の中で神を経験するためです。十字架の経験は常に、復活の神の享受をもたらします。そのような経験が務めを生み出し、形成するのです（Ⅱコリント1:4-6）。この経験は、第4章7節から12節でさらに述べられています。

パウロの言葉は、わたしたちが終結させられる必要があることを見せています。わたしたちは終わりにもたらされる必要があります。そうすれば、わたしたちは自分自身ではなく、神に信頼することを学ぶでしょう。神に信頼し、自分自身に信頼しない必要があると言うことは簡単ですが、この事柄が機能するためにはある程度の経験が必要です。神は十字架を通して働いて、わたしたちを終結させつつあります。神は働いてわたしたちを終わりにもたらし、わたしたちの霊性、霊的な達成でさえ終わりにもたらされます。わたしたちは自分の霊的な達成に大いに信頼するかもしれませんが、それでさえ終結させられなければならないのです。

第1章12節でパウロは言いました、「わたしたちの誇りとするのは次のことです。それは、わたしたちの良心の証しするところです。すなわち、わたしたちはこの世にあって、神の純粹さと誠実の中で、肉の知恵においてではなく、神の恵みの中で振る舞いました。そして、あなたがたに対しては、ますますそのように振る舞いました」。パウロは彼の良心において、この地上で肉の知恵においてではなく、神の恵みの中で歩き、動き、存在しているという証しを持っていました。ある人にとって知恵とは、ある状況に応じる賢い方法であるかもしれませんが、この知恵はわたしたちの肉から出て来ます。肉の知恵は、自分のために何かをしようとして持つものです。神の恵みは、わたしたちは何をするのでもなく、神がわたしたちの内側であらゆることを行なってくれることです。わたしたちが

何かを行なってその状況に応じるのではなく、神にわたしたちの中で、わたしたちのために、あらゆることを行なっていただくのです。これが神の恵みです。

パウロは、神の純粋さと誠実の中で振る舞ったと言いました。「純粋さ」は「単純さ」をも意味します。神は単純で、神は単一です。わたしたちは肉や魂の中にいればいるほど、ますます複雑になります。わたしたちに単純さはなくなり、複雑さがあるようになります。魂の人はとても複雑です。しかし、わたしたちは至聖所である霊の中にいればいるほど、ますます単純になります。わたしたちは霊の中にいればいるほど、ますます単純で単一になります。わたしたちは動機において単一であり、目的において単一であり、すべての願いにおいて単一です。第1章12節に、神の単純さ、あるいは純粋さ、神の恵み、神の誠実さがあります。わたしたちが十字架によって対処されるなら、十字架がわたしたちを終わりにもたらし、平安に満ちた人となって、わたしたちのためにあらゆることを顧みる神の恵みを享受し、経験するようになります。わたしたちは動機において、目的において、とても単純で単一になるでしょう。わたしたちは神の恵みを享受し、神の単純さと純粋さを持ちます。

その霊の油塗り、証印を押すこと、担保

十字架がわたしたちを通して働いてきたとき、この働きは復活をもたらします。ですから、第1章21節から22節は、神はわたしたちに油を塗り、証印を押し、その霊の担保、前味わいを与えてくださったと言います。わたしたちはキリストのものを人に供給しようとするなら、十字架の働きによってキリストを経験しなければなりません。そしてこの十字架の働きは、油塗り、証印を押すこと、その霊の担保のためです。務めはこの経験から出て来ます。わたしたちは今やキリストの中におり、キリストはわたしたちの分け前ですが、わたしたちは十字架の働きによってキリストを経験します。わたしたちは十字架の働きを必要とします。なぜなら、わたしたちは油塗り、証印を押すこと、その霊の前味わい、担保を内側に持っているからです。もしわたしたちが終わりにもたらされていないなら、内なる油塗りと内なる証印を押すことを顧みることはとても難しいでしょう。わたしたちが内なるその霊の担保を享受することは難しいでしょう。十字架の働きは、内なる油塗り、証印を押すこと、その霊の担保を内側で享受することを経験するためです。わたしたちはみな十字架の働きを必要とします。それはその霊の担保を享受するためであり、その霊の油塗りと証印を押すことを経験するためです。

油塗りが第一であり、証印を押すことが第二であり、担保が第三です。神はご自身をもってわたしたちを油塗られます。油塗りはペンキ塗りのようです。ペンキを塗れば塗るほど、ペンキは塗っているものの上に積み重なります。今日、神は神聖なペンキを塗る方です。彼はご自身のすべての要素をわたしたちに塗ります。神が神聖な要素を塗れば塗るほど、神の要素はますますわたしたちの中へと造り込まれていきます。ですから、神がわたしたちを油塗ることは、神のすべての神聖な要素をわたしたちの中へと分け与えることです。わたしたちは未信者であったとき、神聖な要素を持っていませんでした。わたしたちはただ人の要素を持つだけでした。わたしたちが信者になってから、神はご自身をわたし

たちの中へと油塗っておられ、それは神聖な要素がわたしたちの内側のすべての部分の中へと分与されるようになるためです。神がご自身をわたしたちの中に油塗られることは、わたしたちが彼と、また彼の神聖な要素と絶対的にミングリングされて、彼と完全に一になるためです。

油塗りは神の要素をわたしたちの中へと分け与え、証印を押すことは神聖な要素を形づくって印とし、神のかたちを表現することです。印を取って紙に押し当てるなら、印と同じ形が紙に残ります。証印を押すことは、わたしたちに形、あるいはかたちを与えます。神は彼のすべての要素をもってわたしたちを油塗っただけでなく、ご自身のかたちをもってわたしたちに証印をも押されました。神によって証印を押されれば押されるほど、わたしたちはますます神のかたちを持つようになります。

最後に、わたしたちはその霊の担保を持ちます。その霊の担保は、神の完全な味わいの見本また保証としての神の前味わいです。神はご自身を、一種の頭金、前味わいとしてわたしたちの中に置き、内側で神を味わうことができるようにされます。

わたしたちは、神は彼のすべての要素をもってわたしたちを油塗り、ご自身のかたちをもってわたしたちに証印を押し、わたしたちの享受のためにご自身を一種の頭金としてわたしたちの中に置かれたことに、印象づけられなければなりません。わたしたちは、どのように内なる油塗りを認識し、どのように内なる証印を押すことに協力し、どのように聖霊の内なる担保、頭金、手付金、前味わいを享受するかを学ばなければなりません。わたしたちはこれを、十字架の働きによって行ないます。十字架はわたしたちを終わりにもたらさなければなりません。そうすれば、わたしたちはこう言うことができます、「主よ、今わたしは死を宣告されました。わたしは生きる望みを失いました。わたしは終わりです。わたしは終わらされました」。直ちに、わたしたちは内なる油塗り、内なる証印を押すこと、その霊の内なる担保を感じます。油塗ること、証印を押すこと、担保としてのこれら三つのその霊の経験を通して、また十字架の経験をもって、キリストの務めが生み出されます。十字架の働きと内なる油塗り、証印を押すこと、前味わい、あるいは担保によって、わたしたちはキリストの十分な経験を持ちます。そしてわたしたちは、今日からだが切に必要とする務めを持ちます。主がわたしたちをあわれんでくださり、わたしたちが自分を終わりにもたらす十字架の働きをいかに必要とするか、また内なる油塗り、証印を押すこと、その霊の担保を経験して、キリストのからだのために真の務めを持つことを、いかに必要とするかを認識するに至りますように！（ウイットネス・リー全集、1967年第1巻、霊の中の人の自叙伝、第1編）